

(10) 東中筋小学校

学 校 長 濱 口 明 大
校 内 研 究 代 表 者 山 中 実 来

1. 研究主題

『主体的に取り組み、ともに学び合う児童の育成』
～国語科における『話す・書く』を軸とした学び合いの授業づくりを通して～

2. 研究主題設定の理由

本校の児童は、素直で、与えられた課題に対して真面目に取り組む。年度末に行ったCRTテスト等の結果では、算数科については基礎学力面で一定の向上が見られたが、国語科の平均が全国を下回る学年が多くあった。そこで、互いに認め合い、高め合う学習集団の育成を学力定着へのベースに据えて、現行学習指導要領の趣旨でもある『見方、考え方を育む資質、能力ベースの授業づくり』を目指すことや、自分の考えを持ちより主体的に深め合うとも学びに高めていくことを目指し、授業スタンダードの徹底を図り学習リーダーを中心とした授業づくりを行ってきた。

その成果として、授業スタンダードが一定定着し、学習リーダーを中心にした児童の対話を大切にしたい授業づくりの場でホワイトボードやICTを活用して表現の手法を増やしたことや既習内容の提示の工夫により、自分の考えを表現できる児童が増えてきた。しかし、多様な考えを出し合うことや出された意見を深め合う活動には課題が残った。

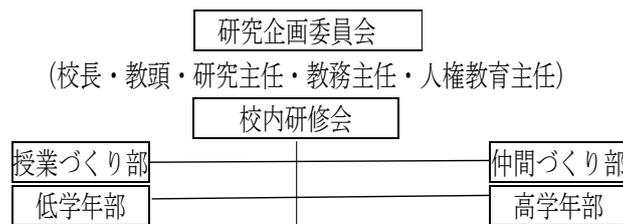
また昨年度は、生活科・総合的な学習の時間を柱に、研究主題を『主体的に学びを生み出す授業づくり』、サブテーマをふるさとに学ぶ、心豊かでたくましい児童の育成とし、各教科で学んだ知識・技能が生きて働き、教科で磨いた思考力・判断力・表現力が（地域の）未知の状況や課題に対応するためのツールになるような①生活科・総合的な学習の時間の新たなカリキュラム等の研究と、前述の②算数科を支柱としたより良い授業等のあり方の追究（①と②）を両輪とする研究を進めてきた。

その成果として、「主体的な学びを生み出す」ことは全ての教科においても大切なことであるということの共通理解のもと、授業改善を行うことができた。また、生活・総合に関わる研究は、従来の校内研究では未着手であった分野だが、先進校の取組を参考にしたり、本校の強みである地域とのつながりを強化させたりすることを目標に据えることで研究の一貫性ができた。また、ふるさと教育と関連付けることは難しかったが、地域との繋がりが薄れつつある状況を鑑み、繋がりを取り戻すために学習の中で関わる機会を設けることができたことは有意義であった。ただ研究教科が多岐にわたったため、焦点化や研究の深まりに課題が残った。

そこで本年度は、複式研究を柱として研究主題を「主体的に取り組み、共に学び合う児童の育成」とし、国語科の授業を通して話すこと・書くことを中心に共に学び合う力を育てることによりリーダー学習を推進し、児童が話し合い活動を活発にできるようにしていきたい。また、検証をもとにした更なる授業改善として、「ひとり学び」を充実させるための手立てや「とも学び」を深めるための教師の支援のあり方等を国語科を柱として追究していきたい。

3. 研究の進め方と方法

* 研究組織



* 研究日・・・毎週水曜日（14：40～16：35）

毎月第1週…職員会・ハート委員会（学級の実態報告と気になる児童の実態把握）

第2～4週…校内研、教材研究、授業研究

* 校内研究授業・・・2、3・4、5・6年は国語、特支学級は公開授業

4. 具体的な取組

(1) 国語科における授業実践

① 5年生 『新聞記事を読み比べよう』

- 身に付けたい力…記事と写真の関係を読み取る学習を通して、書き手の意図を捉えながら読む力

6年生 『インターネットの投稿を読み比べよう』

- 身に付けたい力…より説得力を持たせて意見を伝えるための工夫を捉えながら読む力

② 3年生 『ワニのおじいさんのたから物』

- 身に付けたい力…起こった出来事や人物を捉え、物語のあらすじをまとめる力

4年生 『走れ』

- 身に付けたい力…登場人物の気持ちの大きな変化とその理由について考えながら読む力

③ 2年生 『どうぶつカードを作ろう』

- 身に付けたい力…調べたことをわかりやすく書く力

(2) 外部講師からの複式授業の進め方、特別支援教育・生徒指導等の視点からの学び

○ 高知大学附属小学校 田中 元康 先生

○ 高知大学 是永 かな子 教授

○ 宿毛市・大月町 ICT 支援担当 二神 真 先生

} 2つの学級での師範授業・講話
学級・個々の児童に係る指導・助言
ICTを活用した授業実践や業務改善

5. 成果と課題

○成果 ●課題 ◎次年度に向けて

○研究授業では、複式の学級・単式の学級の両方を観ることができたため、担任学年以外の学習の進め方を学ぶことができてよかった。

○事後研修での学びは次の日からの授業に活かせるため、ありがたかった。

○事後研修の際に、全体で取り組んでいくことを毎回確認していたが、その内容が年間を通じて統一されていた

ことにより、日々の授業の中で気をつけるべき柱が明確になってよかった。

○事後研修に講師の先生を招聘し、講話をしていただいたり、講師の先生に師範授業をしていただいたりすることはとてもありがたく、大変勉強になった。

◎特別支援学級の担任は、研究授業が見られず、事後研修に参加する形だったため、評価をすることができなかった。来年度、特別支援学級の児童につく先生をどうするのかも検討するとよいのではないかな。

○国語科は本当に奥が深いと感じた。そのため、何年かかけて課題を克服できるよう学校全体で研究していくには

とても良いと思う。

◎今年度の課題をもとに、さらに一歩前に進めるような課題設定ができるとよいと思う。

○ICT 活用について講師を招聘し、研修をしていただけてとても参考になったが、ICT 活用が十分にできていなかったため、もっと色々な使い方を知りたい。

○ICT 研修の中で情報交換等ができ、新しいことを学ぶ良い機会となった。学んだことを実際に授業等で使うことができた。また、研究授業の中で（タブレットを）どう使えばよいか一緒に考えていただけて助かった。

◎ICT 活用についての情報共有は引き続き行い、学級での実践に生かせるものにしていく。

◎校内研修の内容については、毎回盛りだくさん過ぎて全ての内容を吸収することができていない状況だったため、内容をさらに精選できるとよいのではないかな。

◎学期毎や中間検証時に限らず、短いスパンでの検証と報告をすれば、授業研や日々の授業等にもタイムリーな形で反映できるのではないだろうか。